帰国生徒教育について

埼玉大学教育学部附属中学校

１　概　　要

本校では、昭和５４年４月から帰国生徒教育に取り組んできました。帰国生徒のみの学級を特設しない「混入方式」をとり、一般生徒と相互に学び合いながら、早期に生活や学習への適応を図り、海外生活で身に付けた特性を発揮・伸長させることを重点として、指導にあたっています。

２　目　　的

以下に重点を置き、帰国生徒の能力の伸長が図れるよう指導にあたるとともに、帰国生徒教育についての研究を行うことを目的とします。

(1) 日本人としての生活習慣・考え方・行動などへの適応
(2) 海外在留によって生じた未学習内容の補充
(3) 海外生活で身に付けた特性の発揮および伸長
(4) 国際理解の深化

３　指　導　方　針

(1) 教育相談の機会を常時設け、個人差に応じた適応指導を行います。
(2) 学習の進度を調整するため、個人差に応じた学習相談を行います。
(3) 海外での生活経験を、学級や学校の中で生かす場面を積極的に設けます。
(4) 生徒同士の交流を深め、相互に学び合う気風を養います。

４　入学後の生活（令和８年度）

・４月９日	入学式
・４月中～下旬	１泊２日の日程でオリエンテーション合宿（１年生全員対象）に参加
・１学期中	初期適応を目的とした教育相談（面談）
	未学習内容補充を中心とした学習会の実施
	３学年帰国生徒合同座談会の実施
・夏季休業中	未学習内容補充のための学習会の実施
	文化祭展示準備
・２学期以降	文化祭展示発表の実施
	必要に応じた教育相談および個別学習の実施
	校外学習（帰国生徒１・２年生対象）
	生徒朝会での成果発表